

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2873600510		
法人名	さくらケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム さくら新宮		
所在地	兵庫県たつの市新宮町鯉崎286-1		
	(電話) 0791-76-2323		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】(平成20年 8月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8人, 非常勤 8人,	常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階建 準耐火構造 造り		
	2階建ての	1 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,500 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月29日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5	要介護2	9		
要介護3	1	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 82.2歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 景珠会 八重垣病院
---------	------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

揖保川沿いに広がった田園地帯の中で自然環境に恵まれたところに位置する。ホームの窓からは1両の電車が通る様子や農道を散歩する姿が見え、まるで風景画を見ているようである。基本的な人権の尊重をはじめとする理念を基に、10ヶ条の日々の具体的なケアの方針が職員の質の向上と実践の共有化に成果を表し、安定した職員体制が確保されている。個人の生活リズムを大切にし、地域の役割を果たしながらチームとしての支援の取り組みがなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の外部評価結果を職員全員で確認し合い、改善課題については日常生活のケアを振り返り、具体的な改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価項目をミーティングで話し合い、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議で、第三者評価結果の報告や改善課題についての話し合いを行い、それぞれの意見を受け止め、運営やサービスの質向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	家族と話し合う機会や報告する機会に、努めて意見を吸い上げ、対応する柔軟な姿勢がある。今後更に、具体的な取り組み方法を検討し、運営やケアの向上に反映する仕組み作りに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地域密着型サービスとしての事業所の取り組み意欲があり、地域活動に参加しながら、利用者一人ひとりが地域の中で暮らし続けられるように基盤を築いている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、事業所独自の理念を作り上げ、地域生活の継続とグループホームに理解を得られるように、職員全員の願いが込められた内容の理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に、「さくら新宮10ヶ条」として日々利用者にかかわる際に具体的な方針を取り決められており、職員一人ひとりに方針が浸透し、ケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の奉仕活動や盆踊り等の年行事には利用者・職員が参加され、毎月行われる婦人会主催のお茶会にも出席し、地域住民の一員としての役割を担う努力がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意味について職員が理解され、全員で自己評価に取り組まれている。また、前回の評価結果について、ミーティングで話し合い、ケアの見直しや改善等を計画的に実践し、質の向上に活かされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	市の職員をはじめ、幅広い立場の人々の参加による定期の運営推進会議が開催され、報告や情報交換にとどまらず、多くの意見を引き出し、サービスの改善に向けた具体的な取り組みに繋げる努力がなされている。		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営や日常のサービスについて、書類の提出等の相談や連絡なども市の担当者と直接話し合ったり、電話で尋ねたり、日頃から現場の実情を伝える機会を作り、自治体との連携に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	預かり金の出納に関しては細かくまとめ、毎月報告している。一人ひとりの暮らしぶりや健康状態については、3ヶ月毎に近況報告を行っている。状態に応じて、個別の電話や訪問に来られた時に家族の方に説明し伝えている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の訪問時に具体的な要望や意見を伺ったり、電話で様子を伝えたりする時にも苦情や相談を受け入れる機会と捉えている。		定期のアンケート調査や家族会の設置等、家族等が不満や意見を気軽に伝えられるような機会を作り、積極的にサービスに反映させていく具体的な取り組みが望まれる。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	現在まで、職員の退職や異動はないが、交代の引き継ぎ期間はひと月と設定しており、馴染みの関係を壊さないように利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は、職員の経験や資格に応じて受講できるように配慮されている。内部研修の充実や伝達研修等、全職員の育成計画がこれからの取り組み課題である。</p>		<p>毎月のミ-ティングの時間の中で、年間研修計画を立てて盛り込んだり、職員の日々の体験を学ぶ意欲に繋げていく為の仕組みが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在は、同業者の管理者間の情報交換での交流が行われているが、他事業所との連携や実践的な交流の必要性を管理者等が強く感じてもらえ、地域の同業者の連絡会結成に向けて取り組まれている。</p>		<p>事業者同士協働しながら、日常のケアや職員育成に役立つ実践的な連携となり、地域全体のサービス向上につながるネットワーク作りに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族が安心してもらえるように十分に説明をしたり、見学してもらっている。事業所での生活に馴染みにくい方については家族の協力を得たり、工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>農作業の仕方や昔の出来事など教えてもらう等、支援する側、される側という意識を持たずに、お互いに尊敬し合い、協力して生活できるような場面作りに取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いを大切にし、言葉の少ない方は行動や、表情からくみ取る努力がなされている。家族の面会時に以前の様子や性格について聞いたりしている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常のケアからの様子観察に基づいた課題を職員全員で話し合い、個別の介護計画を作成している。</p>		<p>馴染みの関係を活かし、一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、介護する側にとっての課題ではなく、家族の思いも大切にしながら、その人らしく暮らせるための支援として何が必要かを関係者の気づきやアイデアを出し合って、本人本位の介護計画作成を工夫してほしい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年の期間を設定し、現状に即した介護計画の見直しが行われている。家族に状態変化や状況確認をしながら、意向を踏まえて検討見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を活かして医療処置を受けながらの生活の継続や、家族の状況や利用者の健康管理の状態確認のために通院等必要な支援が臨機応変に行われている。</p>		<p>事業所の多機能性を活かし、地域住民や利用者が求める支援にどう対応できるかを事業所全体の取り組み課題として話し合い、前向きに模索しながら検討してほしい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を継続している。特別な遠方の医療機関受診を除いては、職員による通院支援が行われている。緊急時には協力医療機関との連携があり、家族の同意を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化された場合や終末期における医療体制を整え、受け入れる方向で事業所の方針を家族・利用者に入所時に説明を行っている。		現時点では事例はないが、今後の支援の対応可能なケアの方法について職員間で話し合い、本人・家族が安心してサービスを利用できるような対応指針を定める等、具体的な取組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いや記録の取り方、管理の仕方に十分配慮している。個人の誇りを傷つけるような言葉遣いや、会話等がプライバシーを損ねないように、秘密保持の徹底が職員全員に図られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが1日をどのように過ごしたいかを把握し、利用者の望んでいるペースに合わせた支援が日々の業務の中で工夫され、柔軟に対応されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを取り入れ、準備や後片付け等、できる事は一緒に行っている。みんなの口に合うように職員が努力されている。		利用者主体に、献立作りから、メニューを書く人、買い物に行く人、材料を吟味する人、下ごしらえや味付け係、盛り付け役など、やってみたいという前向きな気持ちを引き出す場面作りと、食事を1日の大きな、大切な活動としての取り組みに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4日を入浴日と決めているが、一人ひとりの好みや希望時間に応じて柔軟な支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや花の水やり、カーテンの開閉等、現在してもらえそうな仕事を頼み、一人ひとりの力が発揮できる場面づくりがなされている。		利用者は自分で楽しみや役割の場面をうまく作れないので、毎日の暮らしをともにする中で、その人に合った楽しみや役割を引き出す職員の働きかけに期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、喫茶外出、買い物、ドライブ、会食等、利用者の希望や天気に応じて戸外に出かける支援を行い、心身の活性につなげている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアについては、安全性に考慮し、現在昼夜、玄関の施錠が通常となっているが、人員体制や時間帯を配慮しながら取り組む姿勢がある。		運営者や全ての職員が、日中玄関に鍵をかけない暮らしの大切さについて認識し、安全に過ごせる工夫や支援の姿勢があることから、今後の取り組みに期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て、年に2回の消防訓練を行っている。職員が地域の避難場所を周知されており、避難経路や誘導方法について話し合う取り組み予定がある。</p>		<p>日頃より、地域住民や警察署、消防署等との連携を図りながら、災害対策に関する話し合いをもち、協力体制を築き、備品等の点検を含め具体的な支援体制の取り組みが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事摂取状況を毎回チェック表に記録し、職員間で情報を共有している。おおまかな1日の水分量を把握しており、各自の配茶などに配慮し、1日全体を通じた食事量、飲水量、栄養のバランスに気を配っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い廊下に沿ってベンチやテーブルセットが配置され、大きな明るい窓とともに居心地の良い空間が整えてある。絵画を多く飾られたり、季節感のある置物、花等、行き届いた環境整備など、安心感のある場所になるように五感や季節感を意識的に採り入れる工夫がなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、落ち着いた畳の部屋であり、利用者の個性に合わせて馴染みの物を活かし、その人らしい居室づくりに取り組まれている。</p>		

 は、重点項目。